



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月10日

上場会社名 株式会社プラザクリエイイト本社 上場取引所 東  
 コード番号 7502 URL <http://www.plazacreate.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大島 康広  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役経営本部長 (氏名) 中村 守宏 TEL 03-3532-8812  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	13,797	△13.7	△218	—	△202	—	△279	—
2022年3月期第3四半期	15,980	6.2	△52	—	73	△75.7	21	△83.1

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 △319百万円 (—%) 2022年3月期第3四半期 △5百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	△23.00	—
2022年3月期第3四半期	1.76	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年3月期第3四半期	12,826	2,241	17.5	184.61
2022年3月期	12,129	2,682	22.1	220.90

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 2,241百万円 2022年3月期 2,682百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2023年3月期	—	0.00	—		
2023年3月期（予想）				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,000	△12.5	0	△100.0	100	△59.5	0	△100.0	0.00
	～20,000	～△7.9	～100	～△13.0	～200	～△19.0	～100	～△16.7	～8.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	13,836,258株	2022年3月期	13,836,258株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	1,693,001株	2022年3月期	1,693,001株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	12,143,257株	2022年3月期3Q	12,339,308株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき算定しており、今後の経済状況等の変化により、実際の業績は予想値と異なる結果となる場合があります。

（決算補足説明資料の入手方法について）

四半期決算補足説明資料は、T D n e t で開示するとともに、当社ホームページにも掲載する予定です。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う行動制限の緩和により、3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィーク、夏休み、冬休みとなりました。一方、長期化するウクライナ情勢や、急速な円安による物価上昇・原材料価格の高騰等により、経済の先行きは不透明な状況にあります。

このような事業環境において、当社グループは引き続き、モバイル事業の生産性向上と、パレットプラザをはじめとしたイメージング事業の新たな収益の柱となる事業の創造に積極的に取り組んで参りました。

モバイル事業におきましては、オンライン販売を通じた格安プランの台頭など事業環境は大きく変化しています。そのような中、「SoftBank」、「Y!mobile」ブランドそれぞれの特長を活かし、多様なお客様のニーズに対応してまいりました。しかしながら、前第3四半期連結累計期間と比べると、スマートフォンの販売台数は減少しています。要因としては、前第1四半期連結会計期間において「Y!mobile」ブランドへの移行を希望されるお客さまが増加したことの反動によるものと、円安等の影響による主力のスマートフォンの販売価格の値上げが挙げられます。

また、店舗外での販売イベントを積極的に実施した結果、イベント場所の使用料金および派遣スタッフ費用が増加しました。

一方で、実店舗の強みを生かした新たな取り組みとして、スマートフォンの設定などに不安のあるお客さまを対象にした店頭サポートの定額サービスを開始いたしました。

なお、当第3四半期連結累計期間末における店舗数は、101店舗となっております（前連結会計年度末109店舗、前第3四半期連結累計期間末109店舗）。

デジタルデバイスや周辺ソリューションへの企業ニーズが高まってきていることから、法人営業部門の人員を拡充し、当社の店舗に来店される法人顧客に対しましては、端末の販売に加え、企業のDX推進をサポートしてまいりました。

以上の結果、モバイル事業の業績は、減収、減益となりました。

イメージング事業におきましては、プリント事業最大の商機である年賀状プリントは、Web年賀受付サービスを含む当社チェーン店全体の販売枚数は1283万枚（前年同期比84.3%）となりましたが、販売戦略の見直しにより、年賀状プリントの当社チェーン店全体売上高は前年同期比92.3%となりました。店頭での販売枚数が減少したことで、FCオーナー店舗での年賀状プリントの内製化率が高まり、当社グループへの製造委託枚数が減少し、FCオーナー向け年賀状プリントの卸売上高は減少しました。

iPhone修理の「アイサポ」を展開する株式会社ギア（本社：東京都新宿区）と提携して、「パレットプラザ」内でスマホ修理サービスをスタートし、2023年3月までにパレットプラザ100店舗で同サービスを実施することを目指しており、当第3四半期連結累計期間末までに38店舗で同サービスを開始しております。

なお、パレットプラザの店舗数は、当第3四半期連結累計期間末には、フランチャイズ店舗222店、直営店舗15店となりました（前連結会計年度末フランチャイズ店舗239店、直営店舗は8店、前第3四半期連結累計期間末フランチャイズ店舗250店、直営店舗は9店）。

新たなお客様との接点を増やす方法として、ポップアップストア専門部署を設置して、開催場所の選定から運営まで行える体制を整え、『つくるんです®』の知名度とブランド認知向上に努めました。

“オンライン会議のための個室空間” パーソナル・ミーティング・ボックス「One-Bo（ワンボ）」は、新たなラインナップを追加することで、多様なお客様のニーズに応えて参ります。

新たな収益の柱となる事業開発にコストを要したため、イメージング事業の業績は、減収、減益となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は、137億97百万円（前年同期比13.7%減）となりました。利益面では、営業損失2億18百万円（前年同期：営業損失52百万円）、経常損失2億2百万円（前年同期：経常利益73百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失2億79百万円（前年同期：親会社株主に帰属する四半期純利益21百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別における概況と業績は次のとおりであります。

①モバイル事業

当第3四半期連結累計期間のモバイル事業においては、前事業年度の新料金プラン移行からの反動及び、販売インセンティブ手数料の減少などにより、売上高は112億70百万円（前年同期比12.0%減）、セグメント損失は18百万円（前年同期：3百万円の利益）となりました。

②イメージング事業

当第3四半期連結累計期間のイメージング事業においては、新規事業開発コストを計上したことなどから、売上高は25億27百万円（前年同期比20.5%減）、セグメント損益は3億33百万円の損失（前年同期：1億25百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産の額は、128億26百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億97百万円の増加となりました。主な要因は、現金及び預金が5億26百万円、商品及び製品が2億53百万円、それぞれ増加し、受取手形及び売掛金が4億85百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末の負債の額は、105億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億37百万円の増加となりました。主な要因は、流動負債その他が6億10百万円、短期借入金が4億79百万円、それぞれ増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産の額は、22億41百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億40百万円の減少となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純損失2億79百万円、配当金の支払額1億21百万円などにより利益剰余金が4億円減少したことによるものであります。また、当第3四半期連結会計期間末における自己資本比率は、前連結会計年度末の22.1%から17.5%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最新の業績動向等を踏まえて、2022年5月13日に公表いたしました連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日別途公表いたしました「2023年3月期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,406,497	1,933,183
受取手形及び売掛金	2,121,121	1,635,569
商品及び製品	2,369,040	2,622,085
原材料及び貯蔵品	105,548	221,306
その他	1,076,976	1,280,994
貸倒引当金	△10,590	△18,237
流動資産合計	7,068,593	7,674,901
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,313,549	2,314,421
減価償却累計額	△1,072,567	△1,109,379
建物及び構築物(純額)	1,240,981	1,205,042
機械装置及び運搬具	703,560	737,082
減価償却累計額	△694,710	△675,539
機械装置及び運搬具(純額)	8,849	61,543
土地	1,511,248	1,511,248
リース資産	1,183,367	1,236,694
減価償却累計額	△1,144,033	△1,138,133
リース資産(純額)	39,333	98,561
その他	744,865	936,916
減価償却累計額	△556,069	△570,727
その他(純額)	188,796	366,189
有形固定資産合計	2,989,210	3,242,584
無形固定資産		
のれん	263,596	213,233
リース資産	52	31
その他	168,630	158,841
無形固定資産合計	432,280	372,106
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,379,898	1,308,061
その他	271,436	241,109
貸倒引当金	△12,290	△12,290
投資その他の資産合計	1,639,045	1,536,881
固定資産合計	5,060,536	5,151,572
資産合計	12,129,130	12,826,473

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,489,251	1,581,689
短期借入金	3,188,750	3,667,867
リース債務	123,949	77,653
未払法人税等	6,226	4,670
賞与引当金	139,347	61,337
その他	647,119	1,257,281
流動負債合計	5,594,645	6,650,499
固定負債		
長期借入金	3,362,796	3,434,193
リース債務	52,729	84,340
資産除去債務	174,439	159,886
退職給付に係る負債	37,680	37,680
長期預り保証金	186,171	181,747
その他	38,218	36,322
固定負債合計	3,852,036	3,934,170
負債合計	9,446,681	10,584,670
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	1,228,496	1,228,496
利益剰余金	1,914,109	1,513,436
自己株式	△582,698	△582,698
株主資本合計	2,659,906	2,259,233
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22,541	△17,430
その他の包括利益累計額合計	22,541	△17,430
純資産合計	2,682,448	2,241,803
負債純資産合計	12,129,130	12,826,473

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	15,980,099	13,797,421
売上原価	10,767,826	9,127,437
売上総利益	5,212,273	4,669,983
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費及び販売促進費	609,102	519,515
給料手当及び賞与	1,898,890	1,686,240
賞与引当金繰入額	64,592	60,276
雑給	188,340	115,145
賃借料	728,548	691,339
貸倒引当金繰入額	—	7,647
支払手数料	979,357	980,254
のれん償却額	36,453	50,362
その他	759,087	777,415
販売費及び一般管理費合計	5,264,373	4,888,197
営業損失(△)	△52,099	△218,213
営業外収益		
受取利息及び配当金	1,134	5,370
協賛金収入	34,837	7,834
償却債権取立益	12,600	2,300
助成金収入	74,803	3,881
物品売却益	1,075	18,583
為替差益	1,459	14,590
その他	45,754	15,918
営業外収益合計	171,665	68,479
営業外費用		
支払利息	44,145	42,981
その他	1,633	10,152
営業外費用合計	45,778	53,134
経常利益又は経常損失(△)	73,787	△202,867
特別利益		
固定資産売却益	120	1,506
投資有価証券売却益	—	5,709
特別利益合計	120	7,216
特別損失		
減損損失	34,845	67,719
店舗閉鎖損失	12,471	5,196
解約違約金	—	9,000
特別損失合計	47,316	81,915
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	26,590	△277,566
法人税、住民税及び事業税	7,357	4,670
法人税等調整額	△2,530	△2,996
法人税等合計	4,827	1,673
四半期純利益又は四半期純損失(△)	21,763	△279,240
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	21,763	△279,240



## (四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	21,763	△279,240
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△26,812	△39,971
その他の包括利益合計	△26,812	△39,971
四半期包括利益	△5,049	△319,212
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△5,049	△319,212
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表への影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	イメージング 事業	モバイル事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,177,205	12,802,894	15,980,099	—	15,980,099
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	3,177,205	12,802,894	15,980,099	—	15,980,099
セグメント利益又は損失(△)	△125,740	3,003	△122,737	70,637	△52,099

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額70,637千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△242,202千円及び当社とセグメントとの内部取引消去312,840千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、廃棄及び退店を決定した固定資産について帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、前第3四半期連結累計期間の当該減損損失の計上額は、「イメージング事業」において12,301千円、「モバイル事業」において22,544千円であります。

## Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年4月1日 至 2022年12月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	イメージング 事業	モバイル事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,527,278	11,270,143	13,797,421	—	13,797,421
セグメント間の内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—
計	2,527,278	11,270,143	13,797,421	—	13,797,421
セグメント損失 (△)	△333,253	△18,042	△351,296	133,082	△218,213

(注) 1. セグメント損失 (△) の調整額133,082千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△212,367千円及び当社とセグメントとの内部取引消去345,450千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2. セグメント損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当社グループは、廃棄及び退店を決定した固定資産について帳簿価額を回収可能価額まで減損し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上しております。なお、当第3四半期連結累計期間の当該減損損失の計上額は、「イメージング事業」において23,754千円、「モバイル事業」において43,964千円であります。